

災害被災者支援と災害対策改善を求める広島県連絡会（略称：広島県災対連）

広島災対連NEWS

N019 2015年6月8日発行

事務局：広島県労連 広島市東区光町2-9-24-205 TEL082-262-1550 FAX082-261-5059

ブログ//h-kenroren.cocolog-nifty.com// E-mail/bwz23598@nifty.com

シンポ「現代の災害と防災・減災」に85人

～日本科学者会議のシンポが広島県災対連と共催で実現～

6月7日（日）、シンポジウム「現代の災害と防災・減災」がありました。日本科学者会議と広島県災対連（災害被災者支援と災害対策改善を求める広島県連絡会）が共催したもので、85人が参加しました。

関西学院大元教授で工学博士の片寄俊秀氏が「多発する土砂系災害と地域防災力の向上にむけて」と題して記念講演。

片寄氏は、「1960年代以降、周辺や全体の調和を考えない歪んだ開発の中で、危険地区を拡大したこと。その中で日本は最も世界で災害リスクの高い国になった」と指摘。「これからの地域防災力の向上には、頼りになる公務技術者の育成と、野外キャンプなどで住民防災力を鍛える」ことを強調しました。

奈良大学名誉教授の池田碩氏は、「被害があった地域は、土砂災害ではなく、土石流災害である。この要因は『山津波』・『蛇抜け』であり、本来は住宅開発をしないようにされてきた地域だった。そう考えると、今回の災害は『人災』である」と指摘しました。

現地からの報告の後、午後からは7人の研究者から広島市の豪雨土砂災害をはじめ、全国の災害事例の報告がありました。



被災地視察に40人

シンポジウムの前日の6月6日（土）、広島市土石流災害の教訓を生かして今後の被災者支援や減災などにつなげようと、日本科学者会議越智秀二さんの案内で被災地を視察しました。

被災地を視察したのは地質や土木の専門家と市民などおよそ40人。参加者は、去年8月に発生した土砂災害の被災地のうち、広島市安佐南区八木地区や緑井地区など4カ所を視察しました。

